

2025年2月7日

沖縄県がん診療連携協議会
委員各位

沖縄県がん診療連携協議会幹事長
(琉球大学病院がんセンター長)
増田 昌人

審議事項3 「がん診療を行う医療機関」の選定要件改訂会議の基本的な方針について

以下について、審議をお願いしたい。

1 体制（おおむね、前回と同様）

- (1) 事務局：琉球大学病院がんセンター
- (2) 沖縄県がん診療連携協議会では、医療部会およびベンチマーク部会が担当
- (3) 医療部会の下に臓器別にWGを結成して、具体的な審議をしてもらう
- (4) 臓器別WGごとに選定要件が決まったら、医療部会およびベンチマーク部会で審議、承認
- (5) その内容を、幹事会で審議、承認
- (6) その内容を、協議会で審議、承認
- (7) 最終案を、議長から、沖縄県保健医療部長へ提出

2 臓器別WGの構成員の選出方法（おおむね、前回と同様）

- (1) 原則として、がん種ごとに、最新データである2023年症例の院内がん登録の数が
多い上位6医療機関の長から推薦を受けた医師（その臓器の責任者；副病院長または部長を想定） 6名
* 症例数が同数の場合や症例数の少ないがんの場合は、その限りではない
(事務局一任とする)
- (2) 放射線治療専門医 2名（県立中部病院戸板医師、国立沖縄病院前本均医師、琉球大学病院有賀拓郎医師から、その都度2名参加）
- (3) がん薬物療法専門医 2名（沖縄協同病院安次嶺宏哉医師、県立中部病院朝倉義崇医師または吉田幸生医師から、その都度2名参加）
- (4) 琉球大学病院がんセンター長（司会）

の計 11 名とする

(5) 単純な症例数を出しにくいがん種、特に院内がん登録を行っていない医療機関で相当数見ていると想定される乳がんと AYA 世代のがんや、定義はあるが総数が出しにくい希少がんについての委員の選定については、事務局一任とする。

(6) 場合によっては、領域の専門家がほとんど共通している WG、例えば食道がん WG と胃がん WG を合併する、または同時開催するなどを検討し、実際に行うかどうかについては、事務局一任とする。

3 今回、選定条件を決めるがん種は、以下の 19 種のがんでよいか？

①脳腫瘍（脳・中枢神経系）、②頭頸部（口腔/咽頭/喉頭/鼻腔・副鼻腔/唾液腺）、③甲状腺、④食道、⑤胃、⑥大腸、⑦肝臓、⑧胆道（胆のう・胆管）、⑨膵臓、⑩肺、⑪骨・軟部組織、⑫皮膚、⑬乳房、⑭婦人科がん（子宮頸部、子宮体部、卵巣）、⑮泌尿器がん（前立腺、腎、膀胱）、⑯血液腫瘍、⑰小児がん、⑱ A Y A 世代のがん、⑲希少がん

<参考>

1 前回の選定のがん種は以下の 12 種

①胃、②大腸、③肝臓、④胆道（胆のう・胆管）、⑤膵臓、⑥肺、⑦乳房、⑧子宮（子宮頸部＋子宮体部）、⑨前立腺、⑩血液腫瘍、⑪食道、⑫甲状腺

2 現在の院内がん登録分析は以下の 15 種

①口腔・咽頭、②胃、③大腸、④肝臓、⑤胆のう・胆管、⑥膵臓、⑦肺、⑧骨・軟部組織、⑨皮膚、⑩乳房、⑪子宮頸部、⑫子宮体部、⑬前立腺、⑭脳・中枢神経系、⑮血液腫瘍

3 離島・へき地における疾患別対応状況では以下の 15 種

①頭頸部（口腔/咽頭/喉頭/鼻腔・副鼻腔/唾液腺）、②胃、③大腸、④肝臓、⑤胆道（胆のう・胆管）、⑥膵臓、⑦肺、⑧皮膚、⑨乳房、⑩子宮・卵巣、⑪腎・尿路・前立腺、⑫脳腫瘍（脳・中枢神経系）、⑬血液腫瘍、⑭甲状腺、⑮食道

[illegible]